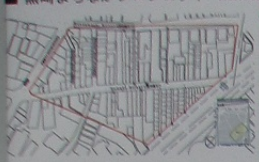
黒崎商店街景観向上プロジェクト

北九州市立大学赤川研究室
濱本　拓磨
永尾　彩

■ 黒崎まちなかプロジェクト KUROSAKI MACHINAKA PROJECT



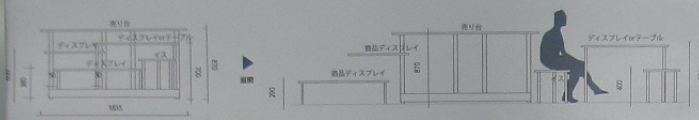
◆本プロジェクトの概要、目的

近年、全国的に地域固有の商店街において商店主の高齢化や郊外の大型店舗進出などの要因により、商店街の活気ある良好な景観が失われつつある。本プロジェクトにおいては、他都市の事例を参考に黒崎地区熊手商店街をモデルケースとし、商店街の活性化に寄与する良好な景観向上策を地元商業者・住民等と協働して実践・調査研究することを目的とする。

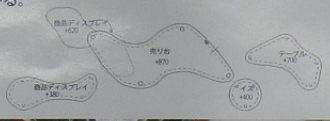
◆本プロジェクトの実施にいたる経緯

2006年度からさまざまな形で黒崎熊手商店街と協働して、商店街の活性化活動を行ってきた。2006年度は、交流スペースのデザインと施工、2007年度は販売カートの設計と施工、カフェの実施、2008年度はシャッター絵画プロジェクト等を行ってきた。

01. Project 2007　販売カート／案内人形　設計・作製



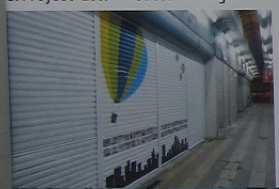
"北九州ブランドのデザイン創出の試み"として"商店街の活性化と地場中小企業の活性化の両方に寄与すること"を目的としたプロジェクト。販売カートは、歩行者の視線をずらすことにより「滞在させる商店街」をコンセプトに作製し、案内看板人形はイベントだけでなく、掲示板としての機能も考慮されている。



02. Project 2008　Design Cafe

07年度に作製した販売カート等のデモンストレーションとして学生主催のオープンカフェ"Design Cafe"を行った。黒崎の風景をデザインしたコースターを提供した。

03. Project 2009　Sutter Design



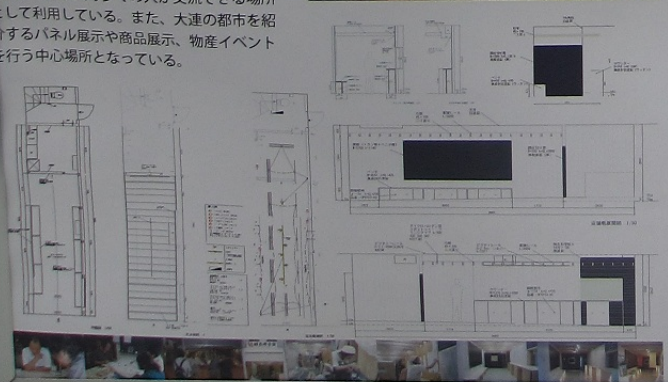
商店街で問題となっているシャッターに焦点を当て、学生自らデザインしシャッターの改装を行った。単に絵を描くのではなく、商店街の人々の笑顔の写真を転写することで商店街との親しみを感じさせるものとしている。

04. Project 2010　大連交流店舗改装

商店街に増えつつある空き店舗を有効活用できないかという提案から「大連交流３０周年記念店舗」を展開することとなった。

長い奥行きを利用して、壁に黒板を設置し多くの人々が自分の痕跡を残していける場所とした。また、狭い空間のディスプレイの為に、床置きではなく天井に吊るすこと考えられて設計を行った。

現在では、北九州市に多く在住している中国留学生や日本人等多くの人が交流できる場所として利用している。また、大連の都市を紹介するパネル展示や商品展示、物産イベントを行う中心場所となっている。



05. 地方都市における商店街の景観形成

全国に分布する様々な商店街の景観形成の試みに着目し、商店街の景観要素と、断面スケールの特性について調査・研究を行った。

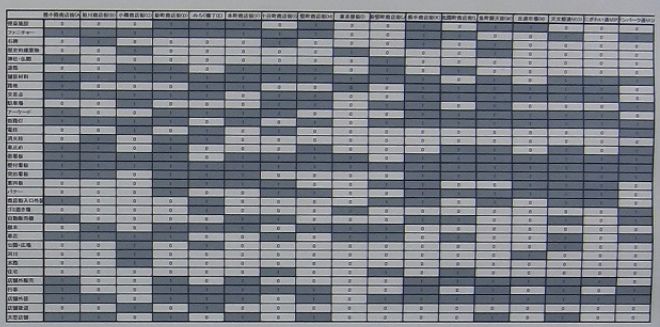
5-1. 景観要素分析

得られた各商店街の景観要素に対し、その有無を評価する。そしてカテゴリー分類し、比較分析した。

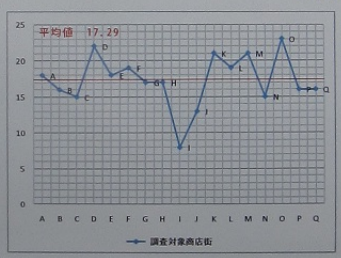
カテゴリー分類表

すでに商店街に存在していた景観要素
・便益施設　・歴史的建築物　・石碑　・神社、仏閣　・道路 ・路地　・交差点　・駐車場　・電柱　・消火栓　・自動販売機 ・河川　・水路　・住宅　・大型店舗

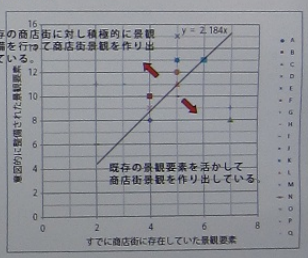
意図的に整備された景観要素
・ファニチャー　・舗装材料　・アーケード　・街路灯　・車止め　・置看板 ・壁付看板　・突出看板　・案内板・バナー　・入口外装　・ゴミ置き場 ・樹木　・草花　・公園、広場　・行事　・店舗外装　・店舗後退



商店街景観要素表



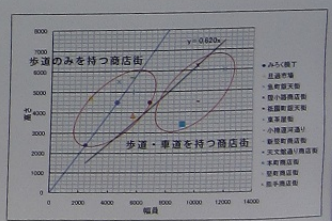
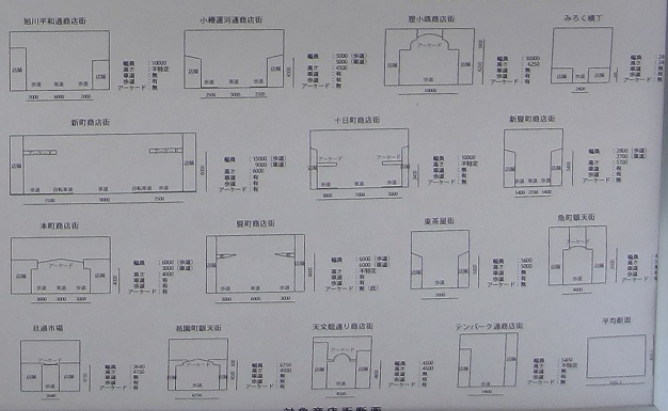
カテゴリー別要素比較



カテゴリー別要素比較

5-2. 断面スケール分析

各商店街における道路幅員と高さの比を求め、道路幅員の数値をもとに高さを算出し、グラフ上にプロットした。それにより断面スケールの特性の調査を行った。



対象商店街における道路幅員と高さ